

北鎌倉台峯トラスト 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

会報

北鎌倉だより

2007年1月 NO.16



台峯の明日を語ろう 歩く会 100回に寄せて

目 次

■歩く会100回の感想	2
■なだいなど台峯を歩く・歩く会からはじまって・・・	3
■歩く会に感謝！「山崎・台峯緑地」の名称歓迎	4
■山崎・台峯緑地基本計画（素案）	5
■全体基本計画図	6
■全体基本計画図	7
■基本設計に向けての課題	8
■第8回トラストの集い報告、マップ作り	9
■会計報告	10
■監査からひとこと・樋原一郎さんを偲んで	11
■トラストの集いと100回記念山歩き案内。活動記録	12

歩く会100回の感想

なだ いなだ

「なださん、あるく会は、まだ続いていますか」そう聞かれことがある。

「ええ、ぼくが引退したあとも、ちゃんと続いてますよ」

と答えながら、《北鎌倉の景観を後世に伝える基金》の歩く会も、もう百回を突破したか、と驚いている。ぼくは、理事長を辞任してからあと、参加していないが、それでもずっと続いていることを誇りに思っている。

カラスの勝手でしようみたいに、ぼくが勝手に誇りに思っているのだが、一緒に始めた仲間のものたち全員も、同じように誇りに思っているのではないだろうか。

ぼくは、みなが、台の緑地を愛してしまったのだと思う。《何十回も歩けば、歩いているうちに、この自然を守ろうという気持ちもわいてくる》そういうてやり始めたことだが、みな、ほんとうに愛してしまったのだな、と思う。

同じ場所を、何十回も歩いた経験はあまりないだろう。それをやった台の緑地は、気がついたら、もう人生の一部になってしまっているはずだ。



ぼくもそうだ。ジャーナリストたちを案内したことがあったが、いつの間にか、自分の説明が、自分の財産というか、自分的一部を自慢しているような口調になっているのに気付いて苦笑したこともある。

ぼくは体力的にちょっと自信がなくなつて、参加しなくなつたが、それでも、あの谷間に下りて、毎回、どこに鎌倉は行ってしまったのだろう、と思うくらい深い静寂を感じる一瞬を思い出す。案内した人から「へえ、鎌倉にこんなところがあったんだ」という嘆声を聞いたときの、自分の誇らしげな気分も、思い出すたびに戻ってくる。

そして、これが、この保全運動をやっている余得なのだと思う。所有していないのに、勝手に、この自然が自分のもののように思えてくるなんて、やっぱり得だ。保全運動をしている人間の味わうことのできる贅沢だと思う。

エベレストの登山家マロリーが、《いくら高い山に登っても、結局は降りてきてしまうのでしょうか》といわれたとき、《いや人間は、山を一メートル登るとき、こころの中で、なにかを一メートル登っている。山は降りなければならないが、こころの中の一メートルは降りることはない》と答えた。この台峯の緑を保全する運動で、ぼくはその言葉を思い出す。台峯の緑を守ることで、ぼくたちも自分のこころの中の緑を守っているのだ。そのこころの中の緑は、ぼくたちが老いて、台の峰や谷を歩けなくなっても、いつまでも残っていて、消えることはない。

なだ いなだと台峯を歩く

吉野 功

ボランティア活動をしている人と話をしても、私が当基金の名前を言うと、その人は決まって「ああ、なださんの会ですか。」と言う。「そうです。」と私は少し誇らしげに答えることにしていて。事実、NPO 法人北鎌倉の景観を後世に伝える基金は、なださんの存在なしには考えられないし、これからも当基金が存続する限り なださんの会であると私は思っている。そしていつのまにか合言葉のようになった「なだ いなだと台峯を歩く」という呼びかけは、台峯の緑地保存を訴える当基金のシンボルになっていたと思う。

私が理事長を承ってすぐに、志を同じくする自然保護団体の人たちに呼びかけて台峯保全連絡会を立ちあげたのは、行政からの示唆もあったが、バラバラに活動しないで各団体

が協力して行政と折衝すべきだという日頃のなださんのご意見を実行したに過ぎない。

幸い久保さんという得がたい人材を理事に迎えることが出来、他の団体の積極的な協力もあって、台峯の自然公園としての基本構想、さらにはこの度の基本計画案まで漕ぎ着けることが出来たと思っている。これらの内容は台峯の里山的保全という当基金の活動目的に沿って策定されているものと満足している。

なださんが運動から離れられた後も台峯を歩く運動は続けられ、今回で 100 回に達したことは一つの市民運動の記録としてはこれも素晴らしい努力であるに違いない。

台峯自然公園の完成までには、これから 10 年を要する。当基金はこのかなり遠い目標に向かって、また活動を続けるとしても、なださんの会であることの品格を持ち続けて行きたいと思う。

歩く会から始まって・・・

久保廣晃

台峯を歩く会が始まってそろそろ 10 年になるそうです。他にもっと適任の方がいるはずと思いながら、「共に肩を並べて歩く」というなだいなだ先生のお言葉に甘えて楽しくやらせていただきました。谷戸の狭い道では後ろの人に声が届きません。先頭と後ろでそれぞれ人の輪が出来、自然に会話が弾んだことが良かったようです。振り返るといつの間にか台峯のファンが増えました。台峯を知ることがいつしか愛着につながり、自分たちの歩く道（赤道）くらいは手入れしようということになったのが 5 年前のことです。道具の用意から人の手配まで、当時の事務局長

小林京子さんや理事の方々のご苦労は一方ならぬものがあったようです。笛刈りや土嚢作りに汗を流し肌で台峯と接しつつ、昨年からは台峯の自然を記録するマップ作りも始まっています。普及活動（歩く会）、保全作業（手入れの会）、調査研究活動（マップ作りの会）と自然保護に必要な 3 本柱が準備された段階で、台峯の未来に向けて話し合いを始めたことは大きな成果でした。地元の人が守ってきた里山を一般市民が継承する事は今だかつてない試みであり、教科書やお手本があるわけでもありません。公有地という枠組みの中ではありますが、様々な台峯への接し方が出来る時代になったと感じます。共に肩を並べ夢を語りましょう。

トラストの集いと

100回記念山歩き案内

なだいなだ前理事長のご提唱で始まりました「山歩き」が100回目を迎えます。毎回参加して下さったみなさまのご協力によるものと感謝しております。これを記念して2月は下記のように行ないます。この会報16号に台峯基本計画図を載せましたので久保さんの解説をご一読の上ご参加いただければ幸いです。午後からの山歩きには、久しぶりになだ先生もお見えになります。皆様とご一緒に101回に向けて踏み出したいと思います。

記

2007年2月18日(日)

9:00～11:00(話し合い)

12:00～14:00(山歩き)

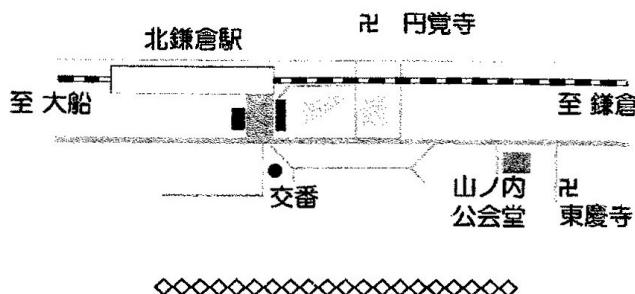
集合場所 山ノ内公会堂

コース 山ノ内公会堂—台峯—中央公園

服装 ハイキングシューズ、リュック、
長袖シャツ

携帯品 飲み物、軽食、双眼鏡、雨具

詳細は事務局までお問い合わせください。



新規会員募集中

年会費 年2,000円

会費及び寄付金の振込先

郵便口座番号 00250-2-20454

口座名 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

活動記録

(2006年8月～2007年1月)

- | | |
|------------|--------------------------------------|
| 1, 定例理事会 | 8/6,9/3,10/1,11/5,12/3 |
| 2, 台峯を歩く会 | 8/20,9/17,10/15,
11/19,12/17,1/21 |
| 3, 山道整備作業 | 8/19,9/16,10/14,
11/19,12/17,1/20 |
| 4, 台峯保全連絡会 | |
| 定例会 | 2/12,3/12,4/9,5/14,6/11,7/9 |
| 臨時会 | 6/25 |
| 市との話し合い | 6/15,7/6,7/12 |



定例行事

1. 山歩き

毎月第3日曜日 (2/18・3/18・4/15・5/20・6/17・7/15)

集合時間 午前9時 解散時間 12時頃

集合場所 山ノ内公会堂(東慶寺手前)

2. 山道の手入れ

毎月山歩きの前日の土曜日

集合時間 午前10時～12時

集合場所 山ノ内配水池

3. マップ作り

毎月第1、第3日曜日の前日の土曜日

集合時間 午前8時～10時

集合場所 山ノ内配水池

会報16号

発行日 2007年1月31日

発行者 NPO法人

北鎌倉の景観を後世に伝える基金

事務局 鎌倉市山ノ内704-9

TEL 0467-47-9892

電子メール [moc@kamakuranet..ne.jp](mailto:moc@kamakuranet.ne.jp)

ホームページ <http://www.kitakamakura-trust.com/>

(継続の手続き上のミスのためアドレスを変更いたしました。語尾のみ trust.org → trust.com)

写真提供 池英夫・市川和夫

山崎・台峯緑地基本計画

久保廣晃

1. 台峯保全連絡会の近況

昨年8月に（仮称）山崎・台峯緑地の基本構想が確定し、11月には基本計画（素案）が発表され、今年の1月には基本計画（案）が発表されました。当基金は台峯保全連絡会の一員として、他の市民団体と毎月協議を重ねながら行政との交渉に臨んでいます。

2. 山崎・台峯緑地基本計画（素案）への意見書

12月4日、当基金は台峯保全連絡会を通じて60項目に及ぶ意見書を提出いたしました。概要是、必要最低限の施設の内容、遺跡への配慮、散策路の一部見直し、環境管理のあり方等です。これらの意見が盛り込まれた基本計画（案）をさらに検討中です。

3. 山崎・台峯緑地の将来像

次頁に掲げた図は基本計画（素案）段階のものですが、緑地内部の施設や広場の配置、散策路の位置、ゾーニングに関しては、ほぼ確定したものと言えるでしょう。基本計画に続く次の基本設計では、この将来像を元にして、各施設の内容や管理運営のあり方が検討されます。

（1）点と線で構成される緑地

風致公園となるため、自然をそのまま残すことが基本となります。都市公園的に整備された場所がない、散策を主体とした公園です。曲がりくねった小道や、谷戸らしい湿った路面もそのままにしていくことになるでしょう。尾根部では、緑地内に残る4箇所の畠跡地を活かした広場（草地）を既存の散策路（鎌倉時代からの古道を含む）が結びます。谷底部では湿地沿いの路から谷戸地形を仰ぎ見るなど、変化に富んだ散策が楽しめるでしょう。

（2）施設は辺縁部に集中し、谷戸の景観に配慮

利便性を図らず、必要最小限の施設に止めていますが、将来環境ボランティアが活動できる体制は最低限のものを整える予定です。谷戸の内部には人工物を極力設置しない方針です。

（3）ゾーニングによる管理方針

中央公園側とあわせると60haを越える広大な緑地となります。これは広町に匹敵する広さです。自然の多様性を保つため緑地を区分し、環境目標別に整備・管理方針を策定するのがゾーニングという考え方です。

●源流の森と里山の保全ゾーン

谷戸の池を中心とした南側の部分は最も自然度が高く、源氏山方面との緑地の接続部分でもあるために、現状の自然を静かに見守ることが優先されます。ただし、池や水路、湿地の維持管理のため、一部では保全作業が必要になるはずです。

●里山の保全ゾーン

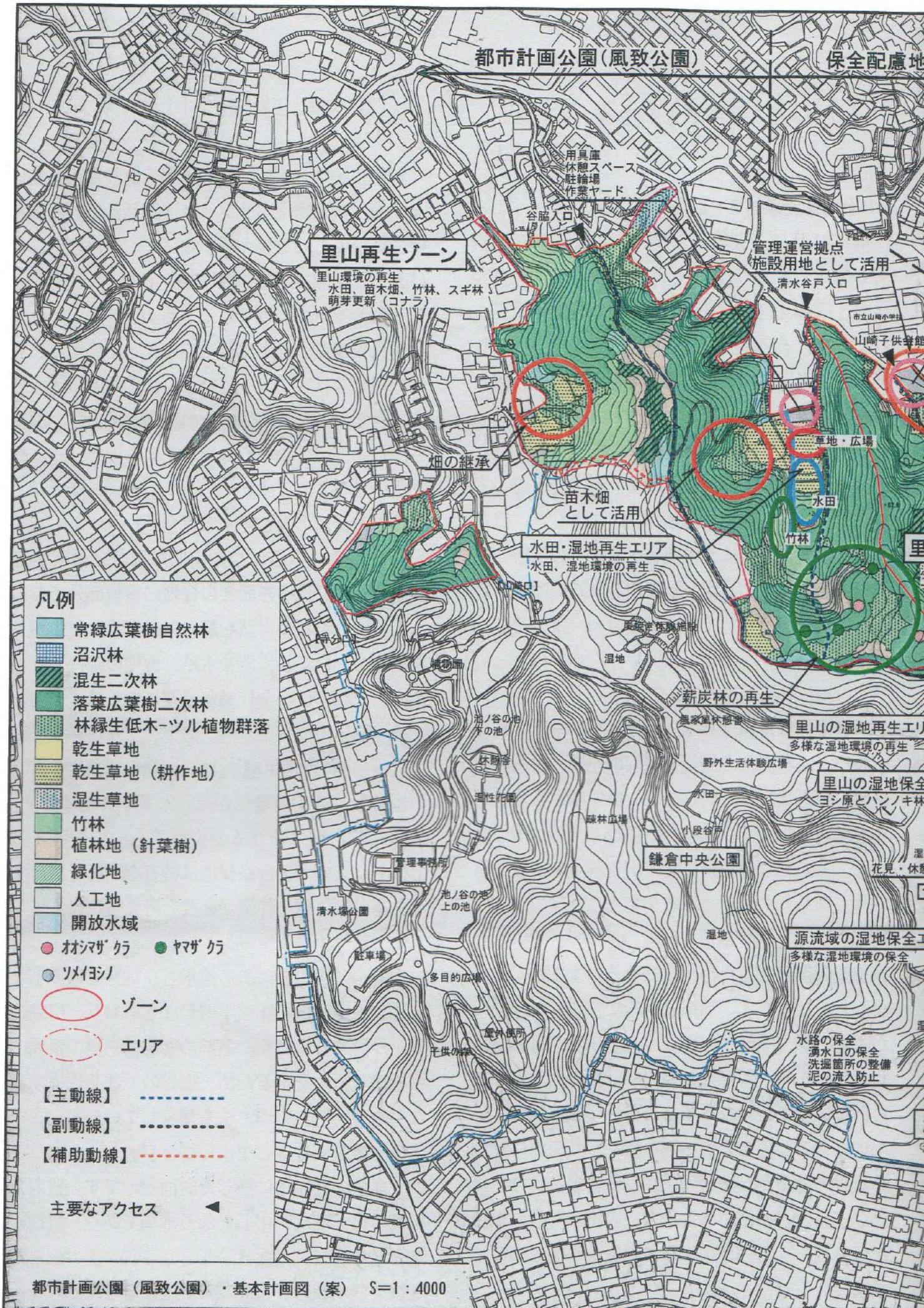
谷戸の池の北側の部分は、湿地の乾燥化や水路の侵食など、環境変化が進行している地域です。放置して自然に任せるとするのも一つの考え方ではありますが、台峯緑地に特有な環境を維持するためには、保全作業が必要と考えられます。

●里山再生ゾーン

山崎小学校の裏にある清水谷戸地区では、小学校による田んぼの体験学習がなされおり、田畠の保全が決まりました。名前のとおり、里山景観の積極的な再生を図るために、樹林の一部を伐採するなど思い切った管理方法も提言しています。

●景観緑地と里山の保全ゾーン

北鎌倉の住宅地に面した斜面緑地です。買収ではなく保全契約が中心となる地域であり、景観緑地としての役割が大きいことから、一部の畠跡地を除き、現状のまま見守ることになります。





基本設計に向けての課題

久保廣晃

基本計画に続いて、今年中には基本設計が決まり台峯の将来像が明らかになるとと思われます。基本設計では管理方法や市民組織の在り方が検討されますが、自然をそのまま活かすことが基本とは言え、現在の自然環境を維持するには保全作業が必要になってきます。台峯の場合、管理と言っても都市公園の維持管理とは違うのが当然で、作業効率が優先する業者任せにはできない部分があります。生態系に配慮しながら散策路の維持管理に務め、一部では里山の生態系を復元する。加えて、台峯に来る人たちを啓発する役割が市民団体に期待されています。当基金にふさわしい関わり方について、会員の皆様のご意見を伺いたく存じます。その前に、台峯緑地が抱える問題点を整理してみましょう。

(1) 目先の課題と長期的な課題

公園として供用を開始するのは 10 年後、買収が進んでいるのは南側の源流の森保全ゾーンのみです。すぐに出来る事と出来ない事を分けて考え、当基金が貢献できる道を探りましょう。

(2) ため池の保全

先日行われた谷戸の池の調査では、予想以上に池底の状態が悪化しており、放置すれば貴重な生物の生息は難しいとの調査結果が報告されました。泥の浚渫が必要ですが、すぐには実行不可能なことから、これ以上の泥の堆積を防ぐため、沈泥池の設置と管理、池の流入量と流出量の測定調査が急がれます。

(3) 川の洗掘対策と湿地の保全

すでに川底が侵食され、湿地の水が抜けやすくなる、散策路が崩壊するなどの問題が起きています。基本設計で具体的な修復対策が決まりますが、有効性を確認するため、今から試験施工を行って経過を観察する必要があります。

(4) 散策路の管理

当基金で始めている手作業による丁寧な草刈が不可欠です。業者のように機械力を駆使すれば能率は上りますが、散策路沿いは貴重な動植物の生息地であるため、自然観察と並行し慎重に作業しなければなりません。

(5) 鎌倉らしい緑地を

現在の畠跡地をどのような広場にするか決まっていませんが、野菜を育てる畠は、収穫物の保存や消費の問題があり実現困難な見通しです。里山の生態系保全を考えると、畠に近い状態を維持したり、草地の環境を復元することが望ましいのですが、作業参加者の目的意識を明確にするため、ススキの原や松苗の育成など鎌倉らしい景観の復元を絡めて考えてはどうでしょうか。

(6) 環境ボランティアの位置づけを

平成元年に策定された「鎌倉市緑地保全事業推進要綱」には、トラスト事業等との連携と併せ、緑地を良好な状態で維持管理する条項が掲げられています。10 年後には指定管理者制度の導入も予想されますが、環境ボランティアの役割を基本設計に位置づけなければなりません。さらに必要な保全作業を明確にし、将来の保全活動に混乱が生じないような仕組み作りを考えたいものです。そして、当基金が一市民団体として、台峯の自然を 10 年先まで責任をもって見守るという謙虚な姿勢を忘れてはならないと思うのです。

第8回トラストの集い

11月23日、観光客で賑わう同じ境内とは思えぬ帰源院で第8回の台峯トラストの集いが40名の参加者を得て開催されました。

久しぶりに姿をお見せになった、なだ前理事長のユーモア溢れる挨拶の後、仙田みどり県議と石川寿美市議の温かい連帯のご挨拶をいただき、会場は和やかな雰囲気で始まり、事業報告、事業計画が報告され、「山歩き」もその目的が「開発予定地」をより多くの人に知ってもらうことから、保全決定後は「自然観察の」会へと、大きく変わっていること。また「山の手入れ」も毎回10名から15名の参加があり、二つの会は今後当基金の「台峯」への係わり合いを決める上で大変重要な旨報告がありました。 続いてこの一年

の会計報告がなされ第一部が終了。

第二部では「基本計画」に対する基金の態度として久

保廣晃理事は、台峯連絡会と市行政の対応と課題が説明され、台峯として重要な時期を迎える、中央公園とは違った里山を実現する為に住民の意見をできるだけ多く市行政に反映させることの必要を訴えられました。

フリートーキングに入り、会員の方々から、山頂からの眺望の確保等、台峯の将来を案ずるご意見も出されました。当基金に対するご理解と信頼をいただき解散となりました。

小田原茂夫



マップ作り

今夏から、第1日曜と第3日曜の前日の土曜8時より2時間、久保さんの指導の下でマップ作りを行っています。

マップ作りと呼んではいますが、どこに何が生きているか、という現状調査から始まって、どのような環境にしたらどのような結果となるのか、従ってどのような保全をしていくべきか等々、考えていくことを目標としています。

例えば、跋扈する道端のササを機械で一様に刈り揃えるのが良いのかどうか？洗掘（浸食作用により川底が深くなること）著しい矢戸の池より下流部分にどう対処するか？といったことを考える上での一助となれば、という思いからの活動です。

皆様のご尽力で、台峯は宅地開発からも都市公園化からも守られました。しかし、あとは野となれ山となれ、では本当に私たちの思い描く姿にはならないでしょう。基本計画策定はじめ、むしろこれから保全の方法が問われることになると思われます。しかし、便利な教科書などはないので、我々自身で考えていかねばならないのです。

まだ4ヶ月もあり、まとまった成果物としてお見せできるほどのものはないのですが、当会による基本計画（素案）の検討は勿論この活動を踏まえています。

今後も（おそらく永遠に）この活動を続けて行きますので、ご興味ある方は是非ご参加ください。集合は配水池前、雨天中止です。

本田隆史

会計報告

(平成18年4月から12月迄)

特定非営利活動法人

北鎌倉の景観を後世に伝える基金

科目		18/12月迄	摘要
収入	正会員	68,000	正会員25名
	個人会費	363,500	本人348名 家族108名 合計456名
	団体会費	9,000	会員8件
	民間助成金	296,524	みどりショップ他
	寄付金	106,000	今年度入金 16件
	機関誌収入	2,400	機関誌「北鎌倉の風」5号迄5冊
	受取利息	7,639	鎌倉縁債他
	雑収入	8,426	絵葉書
	合計	561,489	
支出	(緑地の保全・管理事業)		
	整備作業費	7,940	作業用道具購入
	賃借料	12,000	道具小屋、借地料1年分
	消耗品費	10,700	道具研磨料
	小計	30,640	
	(普及・研修・事業費)		
	通信費	69,745	会員宛会報¥29,160 集い会員宛送付
	印刷製本費	57,773	会報1回及び山歩きビラ7回
	事務消耗品費	26,378	山歩きビラ用紙、他
支出	賃借料	57,000	山ノ内公会堂12月迄使用料
	損害保険料	-3,887	前年度保険料戻し分
	会議費	8,400	集い打ち合わせ
	雑費	16,410	集い
	小計	231,819	
	(広報・出版事業費)		
	通信費	29,362	ホームページ回線使用料10月まで
	事務消耗品費	421	NPOフェスティバル用紙代
	小計	29,783	
支出	(交流・協力事業費)		
	負担金	53,000	日本トラスト協会年会費
	交通費		日本トラスト大会参加交通費
	雑費	420	日本トラスト協会振込料
	小計	53,420	
	(管理費)		
	通信費	42,190	会員宛アンケート、会員証送付、振込料
	事務消耗品費	18,699	コピー代、用紙代、封筒他
	賃借料	30,000	山ノ内公会堂12月迄
保有資産	会議費	15,960	総会
	交際費	15,000	香典代
	雑費	34,845	登記料他
	小計	156,694	
	合計	502,356	
	科目 前期より超過12月末残高		
	現金	0	27,640
	当座預金	262,938	郵貯
	普通預金	699,283	郵貯¥66,229 東三UFJ¥334,429
保有資産	定期預金	12,367,414	郵貯¥9628,029 東三UFJ¥2,739,385
	鎌倉市縁債	1,000,000	1,000,000
		14,329,635	14,688,768

積立金

13,363,000

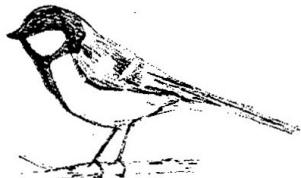
監事から一言

林 雄一郎

私が台峯に関わり始めたのは当会がN P O の法人格をとった時期であったと記憶しております。当会が基金という性格上、公認会計士を入れ、財産管理に重点を置きたいということがきっかけでした。

その後、家族で山道整備やほたる鑑賞会に時折参加する機会を得、会員の皆様の淨財からなる基金の背景にある台峯の貴重な自然を、肌で感じることができました。

基金の淨財が、台峯保全の目的に沿って、綺麗に使われるよう、監事の立場でご協力ができればと思っております。



樋原一郎さんを偲んで

昨年9月に、前理事で1998年基金設立以来広報を担当されていた樋原一郎さんが亡くなられました。



機関紙、会報の企画編集に携わられ、台峯保全に向けて私たちが道に迷うとき、ユーモアでひと呼吸つかせ、揺るがぬ正義感で背中を押してくださった方です。

そのようなお人柄に惹かれるあまり、編集のプロで有能な方だということをほとんど意

識していました。会報の編集に携わってみて、樋原さんが担当された機関紙創刊号の編集、レイアウトの美しさ、機関紙5号の表紙写真の選択など、その素晴らしさがやっと分かってきたところでした。

ご指導の下に開かれた編集会議はいつも自由な発想を重んじ、楽しい笑いに包まれていました。

この基金は各々が台峯のために「はい、私も何か自分のできることをやってみます。」と手を上げ、前に進んできました。

樋原さん、というと思い起こされるこのような気風も次の世代に伝えていきたいと思います。 ありがとうございました。

市川節子

トラストの集いと

100回記念山歩き案内

なだいなだ前理事長のご提唱で始まりました「山歩き」が100回目を迎えます。毎回参加して下さったみなさまのご協力によるものと感謝しております。これを記念して2月は下記のように行ないます。この会報16号に台峯基本計画図を載せましたので久保さんの解説をご一読の上ご参加いただければ幸いです。午後からの山歩きには、久しぶりになだ先生もお見えになります。皆様とご一緒に101回に向けて踏み出したいと思います。

記

2007年2月18日(日)

9:00～11:00(話し合い)

12:00～14:00(山歩き)

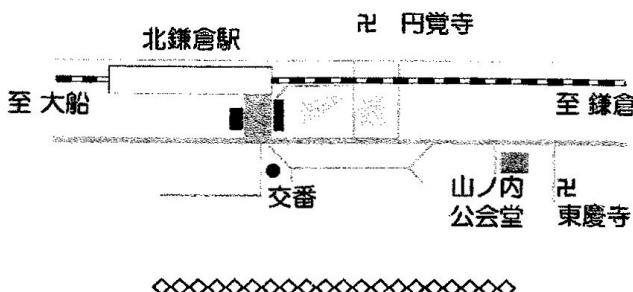
集合場所 山ノ内公会堂

コース 山ノ内公会堂—台峯—中央公園

服装 ハイキングシューズ、リュック、
長袖シャツ

携帯品 飲み物、軽食、双眼鏡、雨具

詳細は事務局までお問い合わせください。



新規会員募集中

年会費 年2,000円

会費及び寄付金の振込先

郵便口座番号 00250-2-20454

口座名 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

活動記録

(2006年8月～2007年1月)

1. 定例理事会 8/6,9/3,10/1,11/5,12/3
2. 台峯を歩く会 8/20,9/17,10/15,
11/19,12/17,1/21
3. 山道整備作業 8/19,9/16,10/14,
11/19,12/17,1/20
4. 台峯保全連絡会
定例会 2/12,3/12,4/9,5/14,6/11,7/9
臨時会 6/25
市との話し合い 6/15,7/6,7/12



定例行事

1. 山歩き

毎月第3日曜日 (2/18・3/18・4/15・5/20・6/17・7/15)

集合時間 午前9時 解散時間 12時頃

集合場所 山ノ内公会堂(東慶寺手前)

2. 山道の手入れ

毎月山歩きの前日の土曜日

集合時間 午前10時～12時

集合場所 山ノ内配水池

3. マップ作り

毎月第1、第3日曜日の前日の土曜日

集合時間 午前8時～10時

集合場所 山ノ内配水池

会報16号

発行日 2007年1月31日

発行者 NPO法人

北鎌倉の景観を後世に伝える基金

事務局 鎌倉市山ノ内704-9

TEL 0467-47-9892

電子メール [moc@kamakuranet..ne.jp](mailto:moc@kamakuranet.ne.jp)

ホームページ <http://www.kitakamakura-trust.com/>

(継続の手続き上のミスのためアドレスを変更いたしました。語尾のみ trust.org → trust.com)

写真提供 池英夫・市川和夫